

大学の世界展開力強化事業
(2016年度採択)
2020年度フォローアップ結果

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

2021年1月15日

独立行政法人 日本学術振興会

フォローアップの総括

2016年度に採択された25件のプログラムについて、①交流プログラムの内容、②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成、③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備、④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及の各観点により、計画の進捗状況や設定した達成目標に対する実績（派遣・受入学生数）等を調査票によりフォローアップの上、主なものを抽出・整理した。

2019年度の各プログラムの状況を見ると、ダブル・ディグリープログラムを本格的に実施するとともに、それぞれの構想の目的や特色を反映した取組が行われており、学位取得やプログラム参加経験を活かした就職など、プログラムの成果が現れ始めている。

事業全体で見ると、タイプA（キャンパス・アジア等による交流）とタイプB（ASEAN地域との交流）の派遣・受入学生数は新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、オンライン交流などを駆使しながら続けられている。

本事業の支援は最終年度を迎えたが、これまでの成果を基に、自立に向けたプログラム運営が行われていくことを期待する。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

取組の進捗状況

① 交流プログラムの内容

東京大学 (A-①-1)

東京大学・北京大学・ソウル大学校の間のダブル・ディグリー、交換留学の派遣受入の実施により、順調に修了者を輩出し、三方向でのダブル・ディグリー実施体制を整備した。また、3か国で共通のコア科目となるCAMPUS Asia Joint Courseでは各大学の教員を相互に派遣しながら共同教育を実施した。

東京工業大学 (A-①-2)

派遣・受入学生の研修旅行によって自然と学生間の交流が深まり、互いに助け合える関係性が生まれ、日中韓大学間交流・連携推進会議委員の訪問時には、参加学生がプレゼン等を通じて学生の生の声を伝え、事業の認知度及び関係機関との連携を深める機会を担った。

名古屋大学 (A-①-4)

長期派遣期間を学生自身が半年または1年のいずれかを選択可能としたことで、本プログラムに興味を持つ学生が増加している。

千葉大学 (A-②-1)

年間を通じて12回行っているエクセレント・サマー（ウィンター）・プログラムでは、企業や地方自治体に協力をいただき、インターンシップを含めた実践型の教育を実施し、日本人161名、中国人280名、韓国人49名、その他46名の合計536名が参加した。参加者からは、アジアのトップ校の学生とのチームワークから学ぶことが多いことや、企業での実践的な経験が得られる等の良い評価を得ている。また、短期ワークショップをきっかけに、長期留学を希望する学生が出てきていることも成果のひとつである。

長崎大学 (A-②-8)

ダブルディグリー・プログラムに基づき長崎大学から派遣された学生2名が山東大学の修士号を取得した。連携3大学全てにおけるインフラ共通科目開講によって、アジア諸国のインフラ整備と維持管理に貢献できる高度専門職業人の育成に貢献している。

新潟大学 (B-3)

大学・学生・企業間の情報共有の重要性を再認識し、質の高いインターンシップを実施するため、学生に「インタビューシート」と「志望動機シート」を作成させて企業と事前共有したり、企業側が作成する「学習設計シート」を事前学習に活用してインターンシップを円滑かつ効果的に実施した。

京都大学、関西大学 (B-5)

事業計画(派遣21名、受入26名)を超える26名の日本人学生を派遣し、29名の外国人学生を受け入れた。これにより、社会基盤・環境分野でのインフラ人材として、ASEAN 各国の歴史・社会・経済状況を理解し、地域にふさわしい社会基盤形成に汗を流し行動する国際人材の育成に寄与した。

広島大学、広島経済大学 (B-6)

SDGsに関わる問題について、ブレインストーミングから具体的な解決策立案までを8時間かけて行う「PEACE-SDGsアイデア・マイニング学生セミナー」を広島経済大学と合同で定期開催することによって、SDGsの実現に向けた実践教育を派遣・受入れ学生双方に提供し、学生の社会企業力を養成している。

慶應義塾大学 (B-7)

参加大学の教職員のノウハウが蓄積したことで短期プログラムの内容面も含めて深化がなされ、学生の応募もコンスタントにあることはプログラムの定着が認められる。また、参加者がより長期の交換留学等に応募する等の相互間の好循環関係がある。

② 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

東京工業大学 (A-①-2)

サマースクールにおいて清華大学の受入学生と東京工業大学の学生が共同研究を行い、論文を出版した。

神戸大学 (A-①-5)

リスク・マネジメントに対する関心を高めつつ、派遣先大学に対する理解を深めるために、連携する3大学の講師がそれぞれの専門分野に関する講義を行う「3大学オンライン共同講義」を、同時に3大学をオンラインで繋ぐ双方向方式で2019年度から実施している。

立命館大学 (A-①-8)

プログラムの育成目標・教学方針の共有、教員と学生間の緊密な連携維持について、学びの質保証の観点から科目担当者会議を開催し、効果的な2言語同時学習や人文学の専門的・体系的学び等について協議を行った。

東京学芸大学 (A-②-3)

学位プログラム・修了証プログラム等のプログラムに係る質保証・質向上に向けた取組を進めており、ダブルディグリー・プログラムにおいても、単位互換の基準を綿密な議論を重ねた上で定めるとともに、学位論文審査基準を3大学それぞれで定めて質保証の枠組みを整えた。

大阪大学 (A-②-6)

日中韓のコンソーシアム大学間で共通の評価票を作成し、交流学生の自己評価及び本プログラムへの評価を実施している。同様に、担当教員による交流学生への成績評価票も作成し、3か国共通の様式を用いて成績評価を行っている。

九州大学 (A-②-7)

ア krediyetasyon 委員会を定期的に開催することで、建築環境教育の国際化と協働教育プログラムの普及を図ると共に、情報交換・共有を行い、質の保証を伴ったプログラムを実施している。

東京藝術大学 (B-2)

ホーチミン市美術大学と本事業に基づく人材交流、共同授業、交換留学等に係る覚書を締結した。

名古屋大学 (B-4)

ヤンゴン大学に名古屋大学の教員を派遣し、専門家がない分野の講義を行い、名古屋大学への長期派遣を行う学問的な誘因を示したところ、多くの現地学生が名古屋大学への留学を希望する結果を得られた。

③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

名古屋大学 (A-①-4)

参加学生との定期的な面談を通してTOEICやTOEFL等の語学能力試験を積極的に受験するように指導し、適宜英語学習に関して助言を行った結果、海外受入大学から名古屋大学の派遣学生の英語力が大幅に向上したとの評価を得ている。

岡山大学 (A-①-6)

日本人学生とのバディを活用した履修オリエンテーション及び生活支援や、岡山大学キャンパス・アジア事業参加者を交えてのウエルカムパーティーなどの交流活動の実施、岡山市及び近郊の文化活動への参加や修了時の学生フォーラムとフェアウエルパーティーなど、継続的な学生交流ネットワークづくりを展開した。また、アカデミックカレンダーの相違についても十分に周知するなど、学生が不利にならないように海外相手大学の教員と緊密な連絡を取りながらプログラムを実施するとともに、キャリア開発センター、岡山県産業振興財団等による就職支援も提供している。

九州大学 (A-①-7)

上海交通大学と釜山大学校に対応して、中国人と韓国人の教員がキャンパスアジアプログラムの運営に深く関わることにより、学生派遣や受入時のきめ細かい対応を可能とする環境整備を整えている。

立命館大学 (A-①-8)

学習・生活サポートを行う学生組織やCAPサポーターを組織し、歓迎会や各種交流会、ランゲージエクステンションなどの企画・運営を行っている。また、日中韓の学生が共修する「CAP演習」を履修し、東アジア人文学の課題についても学んでいる。

東京藝術大学 (A-②-4)

「中期留学プログラム」では、派遣・受入学生が海外における作品制作やテーマに基づくリサーチを実施し、自身のプロジェクト制作を中心に滞在しながら留学生向けに開講される講義の受講など、様々な教育プログラムに参加可能としており、学生の発展的な学修・研究に繋げている。韓国総合芸術学校とはダブルディグリーの実施に向けて双方の学生の派遣受入環境について協議を重ねた。

九州大学 (A-②-7)

参加学生へ事前事後ガイダンスを実施することでスムーズにプログラムを遂行可能となる支援を実施し、学習面ではティーチングアシスタントによるサポートを行っている。また、派遣学生に対しては、学部生からLSPAプログラム（語学研修プログラム）及び短期留学を実施し、徐々に英語に慣れ、長期のプログラムにも参加できるよう段階的プログラムとなっており、学部4年生～院生2年生を対象に英語力向上セミナーによる語学力向上のための支援も実施されている。

長崎大学 (A-②-8)

外国人留学生の受入では、来日直後から多文化社会学部の学生ボランティアによる日本語研修及び留学生教育・支援センターでの日本語の授業により語学面での不安を解消している。さらに、国際コーディネーター等が常時対応できる体制を整えて、留学生が安心して長崎で生活し、学業に専念できる環境を提供した。

早稲田大学 (A-②-9)

派遣・受入予定学生に対して中長期学生歓送迎座談会や「キャンパス・アジア学生ランチ」を定期的を実施し、学生同士のネットワーク構築を図ると同時に、留学体験報告を通じて留学先での成果や課題を聞き取り、次回派遣のための環境整備を実施した。

東京藝術大学 (B-2)

連携8大学及び外務省、国際協力機構、国際交流基金、日本大使館、日本国政府アンコール遺跡救済チーム、ハノイ国立交響楽団、連携大学の管轄省庁等と本事業の内容・方針や個別の教育プログラムについて協議・情報共有を行い、各種サポートを受けられる体制を整備するためのネットワークを強化した。

広島大学、広島経済大学 (B-6)

「社会企業力」の養成の一環として、ビジネス・経営分野で特に強みを持つ広島経済大学から講師を招き、広島大学で各研究の専門知識を学ぶ交換留学生を対象とした「社会企業セミナー」（英語）を年に2回開催する等、それぞれの大学の強みを生かした共同教育を実現している。

明治大学 (B-8)

混住型学生寮「明治大学グローバルヴィレッジ」は、外国人留学生と日本人学生が学習及び交流スペースを共にしながら生活し、国際コミュニティを形成していく「学びの場」として位置付けられ、セキュリティにも配慮した快適な修学環境と、日常生活における日本人学生との交流の場となっている。また、理工学部・理工学研究科では、異なる学年の送出プログラムをオーバーラップさせて実施するなど、ニーズの高い国や地域の連携校からの受入プログラムを開発・拡充することによって当初予定を上回る実績を挙げている。

④ 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

東京大学 (A-①-1)

公共政策大学院は東京大学で唯一ダブル・ディグリーを実施している大学院として東京大学の国際化を牽引している。

一橋大学 (A-①-3)

情報をタイムリーに発信するため、本学のウェブサイトに加えInstagram・FacebookなどのSNSを積極的に活用している。

九州大学 (A-①-7)

国立台湾科技大学との間で新たな修士課程ダブルディグリー協定を締結し、2020年度から相互にダブルディグリー生の受入れを開始した。

千葉大学 (A-②-1)

連携する3大学に加えて、植物環境イノベーションに強い北京林業大学、中国美術学院、広州美術学院、大連理工大学（以上中国）、ソウル国立大学、明知大学、韓京大学校（以上韓国）、シンガポール国立大学（シンガポール）も積極的にプログラムに参加協力してもらうことによって、大学の国際化を推進するとともにプログラムの質の向上の担保に務めている。

東京学芸大学 (A-②-3)

短期プログラムの開発や経済的支援制度等を充実させ、教員養成系学生の眼を外に向けたための仕掛け作りに取り組んでいる。また、毎週北京師範大学及びソウル教育大学校に派遣中の学生による留学便りを掲載する等、豊富な活動を定期的にウェブサイトで発信している。

東京藝術大学 (A-②-4)

本事業を通して制作された作品等、事業内容や成果について発表を行ったほか、連携3大学共同の特設ウェブサイト「caica.online」により広報活動を促進したことで、学内外をはじめ国外にも広く事業について発信した。

東京藝術大学 (B-2)

「日メコン交流年2019」における展覧会にミャンマー政府及び日本大使館の要請を受けて連携大学と出品し、日本のアートを広く紹介したところ現地メディアにも取り上げられた。また、タイのシラパコーン大学とはアニメーションのワークショップ、本学学生による自作についてのプレゼンテーションや上映会を行った。

新潟大学 (B-3)

国際ネットワークの構築・強化を目的とした「リエゾンプロフェッサー（LP）制度」において、本事業成果を基に連携4大学から各1名の教員にLPの名称を付与して連携強化を図るとともに、今後、メコン各国において新潟大学・新潟・日本のアピール機会の増加に期待ができる。

広島大学、広島経済大学 (B-6)

事業初年度に新設したカンボジア拠点「広島大学-カンボジア王国教育、青年、スポーツ省連携センター」と連携することで、カンボジア国内における本事業及び新規外国人留学生の獲得を目的とした広報活動を実施している。

明治大学 (B-8)

共創FDワークショップ・CLMV学生会議で実施したフィールドトリップ及びラップアップセッションでの各学生グループの発表の様子を収録し、動画配信を開始したことは海外相手大学だけでなく、その他の大学教員・学生にも広く取組を周知できた。

特記すべき成果

東京大学 (A-①-1)

日中韓の国際関係改善に資する人材として社会に貢献し得る卒業生を輩出する枠組みが構築されつつあり、修了生は就職先の省庁や財団、企業等において、本取組で学んだ経験を活かして、国際的な公共政策人材として活躍し始めている。また、日中韓における修了生のネットワーク化が本格的に進み、3か国に跨ったネットワーク作りを各大学の教職員や三国協力事務所とも連携を取りながら実施している。

一橋大学 (A-①-3)

本事業により得た知識とノウハウにより、トルコのKoç大学、メキシコのEGADEビジネススクール、ノルウェーのUISビジネススクールと学期間交流協定を締結した。

神戸大学 (A-①-5)

国内外の専門家や研究者を招請して行われる「リスクマネジメントセミナー」を継続して開催し、「国際機関、開発コンサル」などの学生のニーズが高いキーワードをもとに、国際機関で活躍している実務家から専門的な世界基準の講義を実施した。また、修了生の中から、国際協力機構や中国外務省など、国際的なリスク・マネジメントにかかわる機関への就職を果たしている。

岡山大学 (A-①-6)

パイロット事業から取り組んできた思想及び経済に関する共通教科書（『東アジアの共通善 和・通・仁の現代的再創造をめざして』及び『日中韓経済学』）が補助金に頼らない自立した事業として出版している。また、派遣交換留学生に対しては、習得した言語の能力測定を義務化し、語学力の伸長を可視化し、受入学生の中にはプログラムに参加したことで国際的な視野を広げ、実践に通用する高度なマルチリンガル能力を身につけたことにより、日本で就職する学生を輩出することができた。

東京大学 (A-②-2)

当初計画を大幅に上回る学生交流数（派遣学生の累計151名、受入学生の累計94名）を挙げることができた。また、交流対象となる国を理解するために語学能力の向上を目指し、派遣学生では中国語検定（HSK）6級8名、5級12名、4級2名、3級1名と、韓国語検定（TOPIK）6級9名、5級2名、4級2名の合格者を輩出した。

東京海洋大学 (A-②-5)

学生の相互派遣が順調に実施され、特に海洋分野における国際協働教育プログラム（IJP）学生数が5名まで増加したことや、3大学間で学位審査内容やスケジュールについて調整を行った結果、海洋分野における共同学位プログラム（DDP）学生2名（上海海洋大学在籍）を輩出することができた。また、DDP学位審査手順は基本的な共同学位審査のスキームとなり、今後、他大学との共同学位プログラム推進に活用する。

大阪大学 (A-②-6)

学生のニーズに応じた学習環境を整備した結果、当初計画を大幅に上回る26名の学生を受入れた。また、本邦初となる医学研究科におけるダブル・ディグリー・プログラムの運用を開始した。

早稲田大学 (A-②-9)

学生主体のランチミーティングをはじめ、学生フォーラムやアラムナイイベントにも多くの学生が参加することにより、キャンパス・アジア学生としてのコミュニティ意識も醸成され、積極的な課外活動の活性化が促進された。

新潟大学 (B-3)

グループワーク(GW)インターンシップは、受入企業との振返り意見交換会で事業改善、新規発想、外国人採用戦略検討や若手社員のOJT的効果等で効果的と評価され、日本経済新聞や日本水道新聞等のメディアで紹介された。また、新潟大学と燕市の包括連携協定を基に、産業振興の情報発信及びインターンシップ推進等を燕市から委託実施している「(公社)つばめいと」とも連携したGWインターンシップは、「マイナビ第3回学生が選ぶインターンシップアワード」において優秀賞を獲得した。

京都大学、関西大学 (B-5)

京都大学・関西大学卒業生との密接なネットワークを活かしたインターンシップ派遣先を確保し、社会基盤・環境分野でのインフラ人材として、ASEAN 各国の歴史・社会・経済状況を理解して地域にふさわしい社会基盤を考え、その形成に汗を流し行動する国際人材を育成した。

明治大学 (B-8)

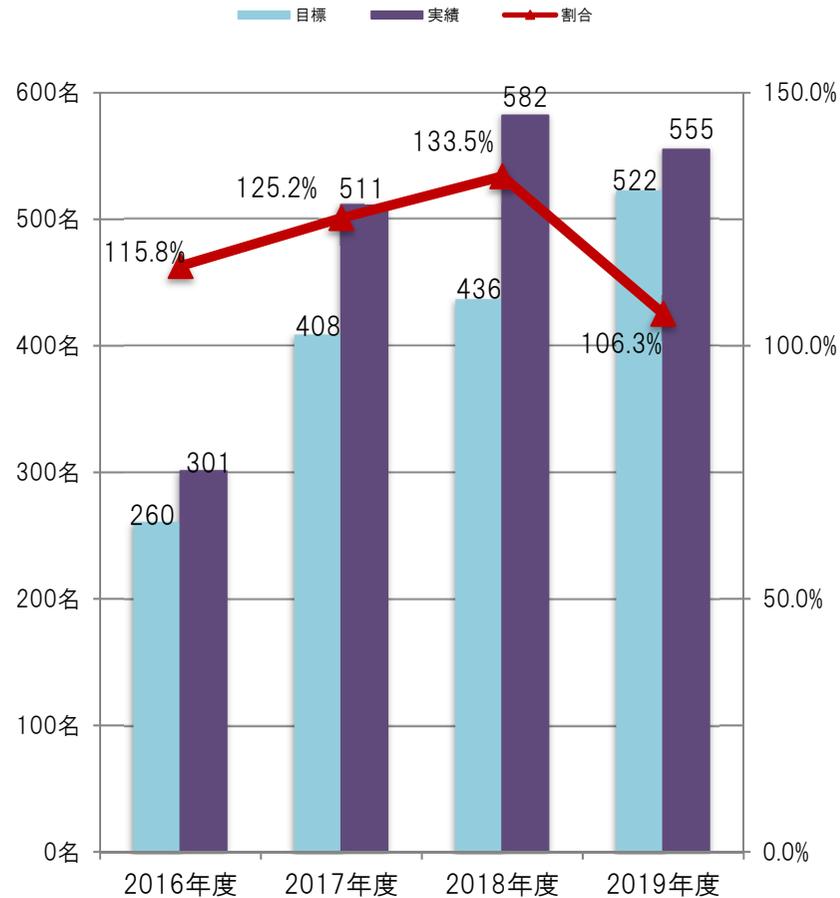
3学部合同PBL型体験学習として東急株式会社及び関係各社の協力のもと、渋谷駅周辺再開発エリア視察・訪問学習を実施し、王立芸術大学、ホーチミン市建築大学、チュラロンコン大学、シンガポール国立大学、ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学、シーナカリンウィロート大学からの受入学生29名が参加した。

交流学生数の実績（1）

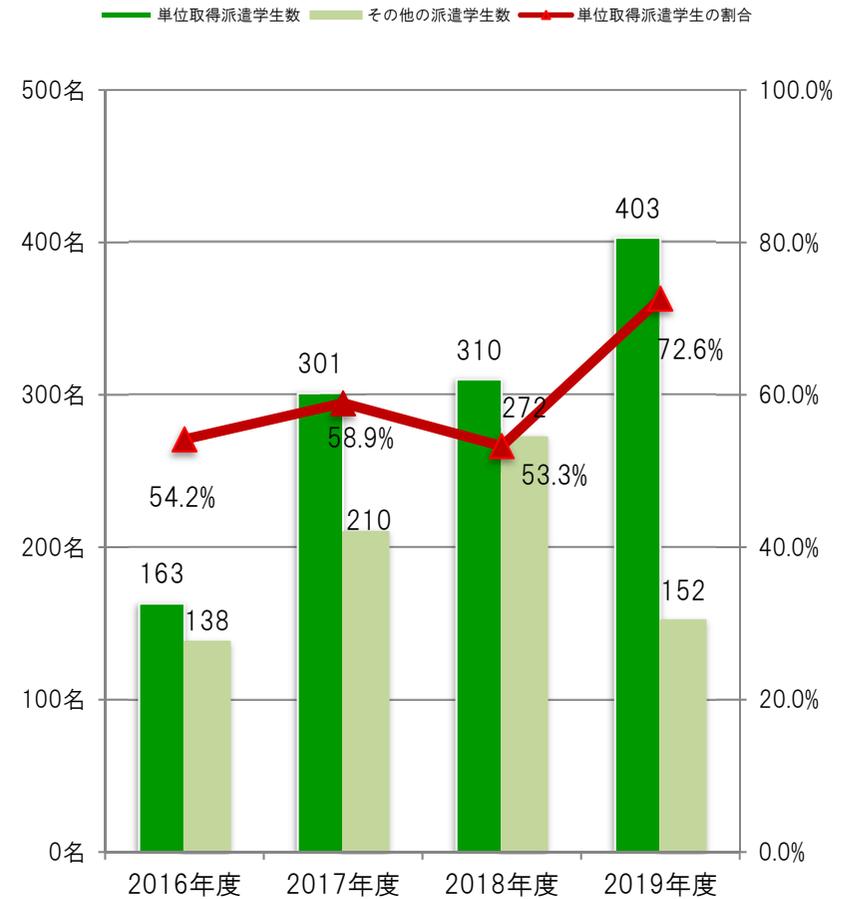
（1-1）留学した日本人学生数（派遣学生数）〈タイプA全17プログラムの年度別推移〉

いずれの年度も目標を上回っている。うち単位取得を伴う派遣学生数は事業開始以来一貫して増加し、2019年度は全体に占める割合が7割を超えた。

目標に対する実績・割合



〈参考〉単位取得を伴う派遣学生数・割合

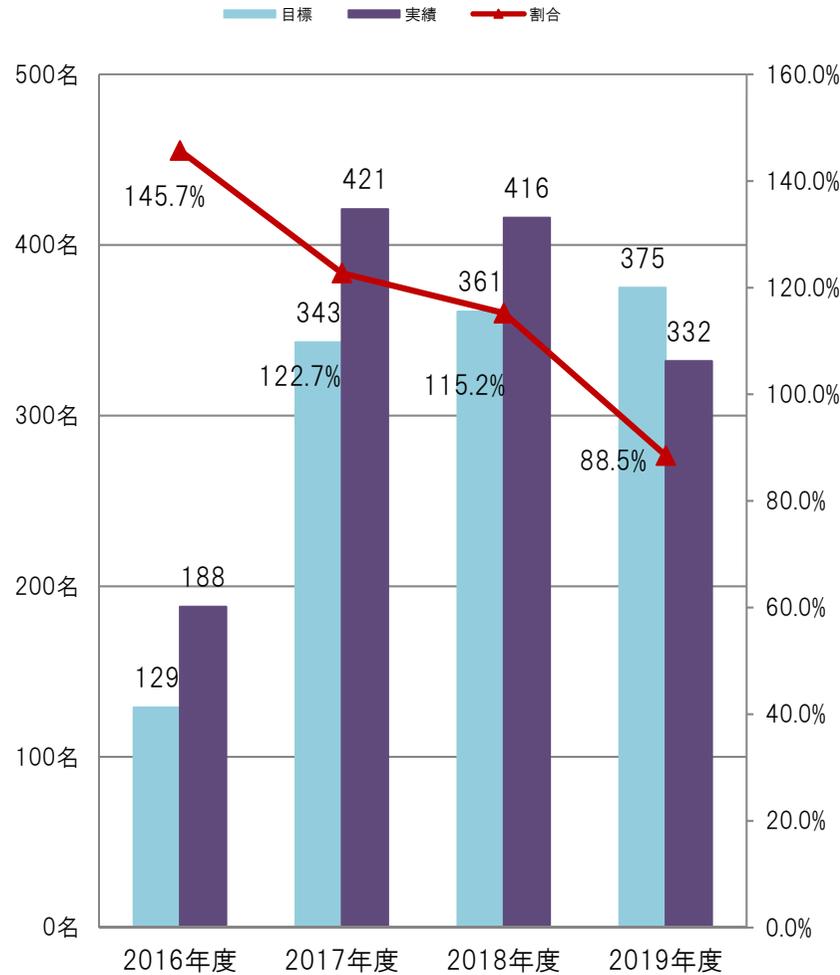


※詳細は別表1 参照

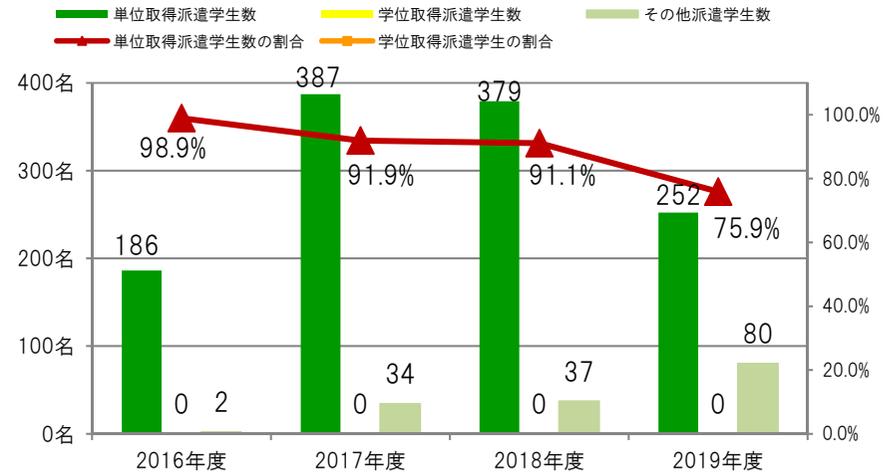
(1-1) 留学した日本人学生数（派遣学生数）〈タイプB全8プログラムの年度別推移〉

コロナ禍により派遣見合わせや中止の影響によって、目標を下回っている。

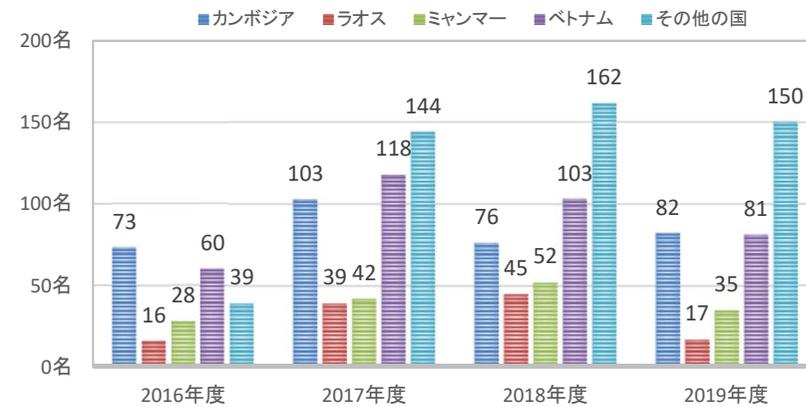
目標に対する実績・割合



〈参考〉学位・単位取得を伴う派遣学生数・割合



〈参考〉留学先

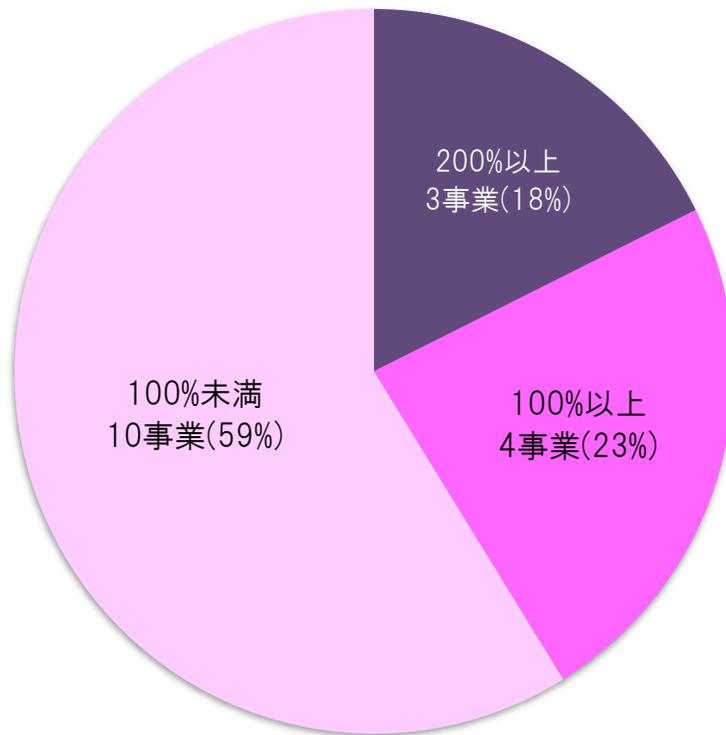


※詳細は別表3、5参照

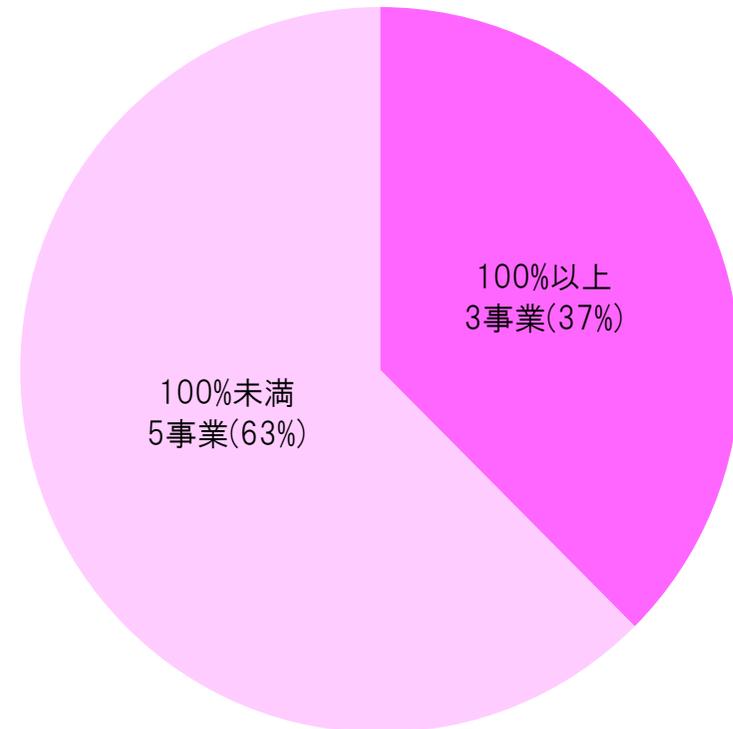
(1-2) 留学した日本人学生数（派遣学生数）〈2019年度の達成状況〉

目標に対する達成率

タイプA(17プログラム)



タイプB(8プログラム)



※詳細は別表1、3参照

(1-3) 交流プログラム（派遣）の進捗状況

東京工業大学（A-②-2）

派遣・受入学生との研修旅行を実施した結果、学生間で自然と交流が深まり「キャンパス・アジア生」というチーム意識とともに、自発的に助け合える関係性が生まれ、これから留学する東京工業大学の学生にとっては、事前に派遣先大学の学生と知り合うことができる貴重な機会を提供した。参加した学生の長期間の留学、海外の大学院への進学例もあり、グローバルな人材育成に繋がっている。

神戸大学（A-①-5）

各部局における説明会の実施やホームページでの広報の結果、国際協力研究科の他に法学研究科の学生の長期留学参加を確保した。短期プログラムにも多くの学生の参加があり、交流の幅が着実に広がっている。

岡山大学（A-①-6）

学生のモビリティ確保という量的な交流実績の達成と共に、プログラムの質の向上に向けて、短期プログラムを単なる相互訪問ではなく、講義やセミナー、フィールドワーク、学生交流などの多面的に経験できる内容とした。短期プログラムの参加者から交換留学への参加者も派遣・受入ともに増加し、留学経験者の学習・生活体験の共有が、短期プログラムへの参加者の増加にも繋がっている。

東京海洋大学（A-②-5）

ダブルディグリー1期生の輩出に向けて、OQEANOUS協議会を通して3大学の修士修了要件、論文審査要件、論文審査及び修了スケジュールについて情報共有を行い、共通ルールを構築した。また、連携する3大学の科目の修士修了要件については図式化のうえウェブサイトに掲載して学生へ周知するとともに、共通ルールについてもウェブサイトに掲載し、参加学生及び他大学向けに情報共有を図ることとしている。

大阪大学（A-②-6）

本邦初となる医学研究科における博士課程のダブル・ディグリー・プログラム(DDP)を本格的に開始し、北京大学と延世大学校へそれぞれ1名のDDP学生を派遣した。履修登録並びに単位履修に向けた活動は、双方の大学からのサポートによりスムーズに進んでいる。また、2国間プログラムに加え、日中韓3か国間を回るローテーションプログラムも開催し、新たな学習プログラムを展開している。さらには、キャンパスアジア参加学生の同窓会組織を発足して、留学中の学習・研究成果や留学後のキャリアプランについて報告を行い、次期派遣候補学生への情報提供の機会としても活用している。

九州大学（A-②-7）

協働教育プログラムであるサマースクールは同済大学（上海）にて開催され、3大学でのサマースクール実施が一周したことにより、3大学持ち回りで共同実施できるシステムが構築され、今後も継続的に実施する体制が整えられた。

早稲田大学 (A-②-9)

プログラム参加募集回数の増加や応募要件の緩和、学内プログラム委員による学生への積極的かつ直接的な広報活動等により、中長期留学生数の増加に繋がった。2020年度より紛争解決・社会変革に係る科目を副専攻プログラムに設置することは、より全学的な本プログラムの訴求機会となり得る。

東京外国語大学 (B-1)

継続的な協議により安定した学生交流が実現し、派遣学生が受入大学での日本語教育や日本紹介イベントに積極的に参加することによって現地の日本語や日本理解の伸張に寄与している。また、本学卒業生によるリレー講義とグループ討議及びグループ発表を通して、ASEAN地域での就労やASEAN地域とのビジネスにおける現地理解の重要性、留学中や在学中に取り組むべき内容等の理解を深めている。大学院においては派遣成果を活かした論文執筆を指導し、修士号取得を実現した。

京都大学、関西大学 (B-5)

修士課程の短期交流プログラムでは、2週間ずつ京都大学とタイのカセサート大学で実施する双方向の留学プログラムを実施し、京都大学でのプログラムでは、国際的に展開する日本の建設コンサルタント企業と協力し、海外経験豊富な社員との討議や学生発表を組み込んだ短期インターンシップを取り入れるとともに、ダム建設の現場体験を組み合わせた短期交流プログラムを実施し、留学生と日本人学生が共に学ぶ双方向プログラムを実施した。交流事業を振り返り次年度以降のプログラムへ反映させるファカルティ・ディヴェロップメント・シンポジウムを毎年度開催しており、実施事業の継続的改善を図っている。

広島大学、広島経済大学 (B-6)

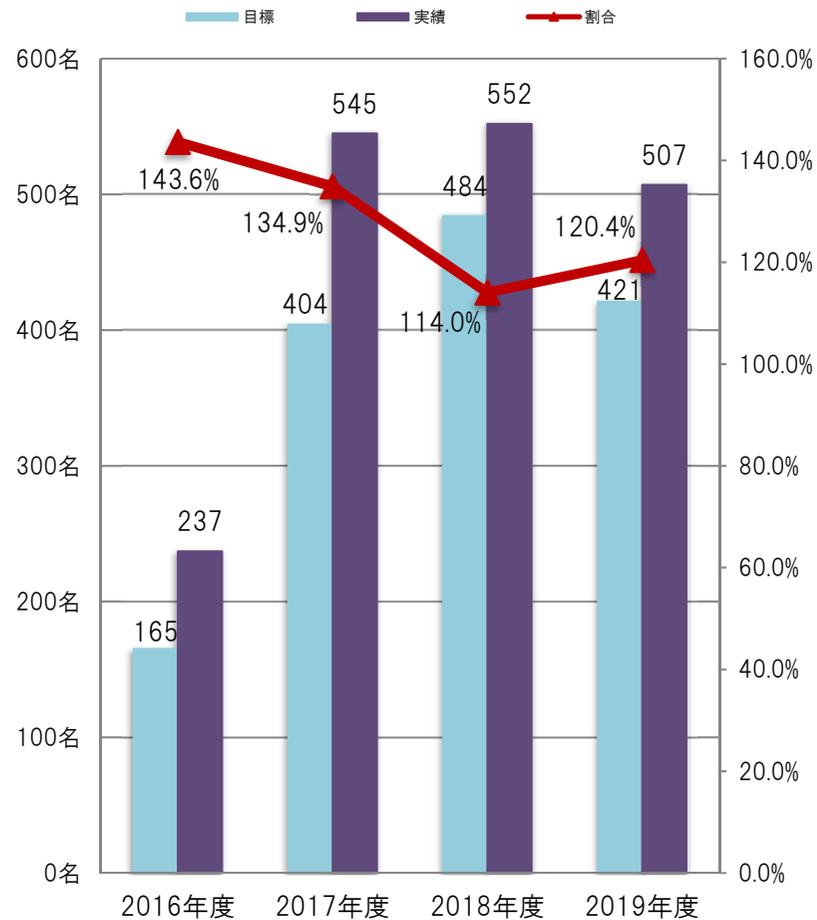
CLMV諸国への関心を高め、より中長期の海外留学への挑戦を促すことを目的とした短期派遣プログラム「カンボジア・スタディツアー」は、新型コロナウイルスの影響を考慮して学生の海外派遣は中止したが、事前研修の段階からオンライン協働学習(COIL)の教育手法を導入し、王立プノンペン大学をはじめとしたカンボジアの大学の学生とのオンライン・プロジェクト協働学習の実践を通じて交流を実施した。また、現地NPO法人からのオンライン講義の受講や現地研修に相当する教育を提供等により、単位付与相当の教育・学修機会を提供した。

交流学生数の実績（２）

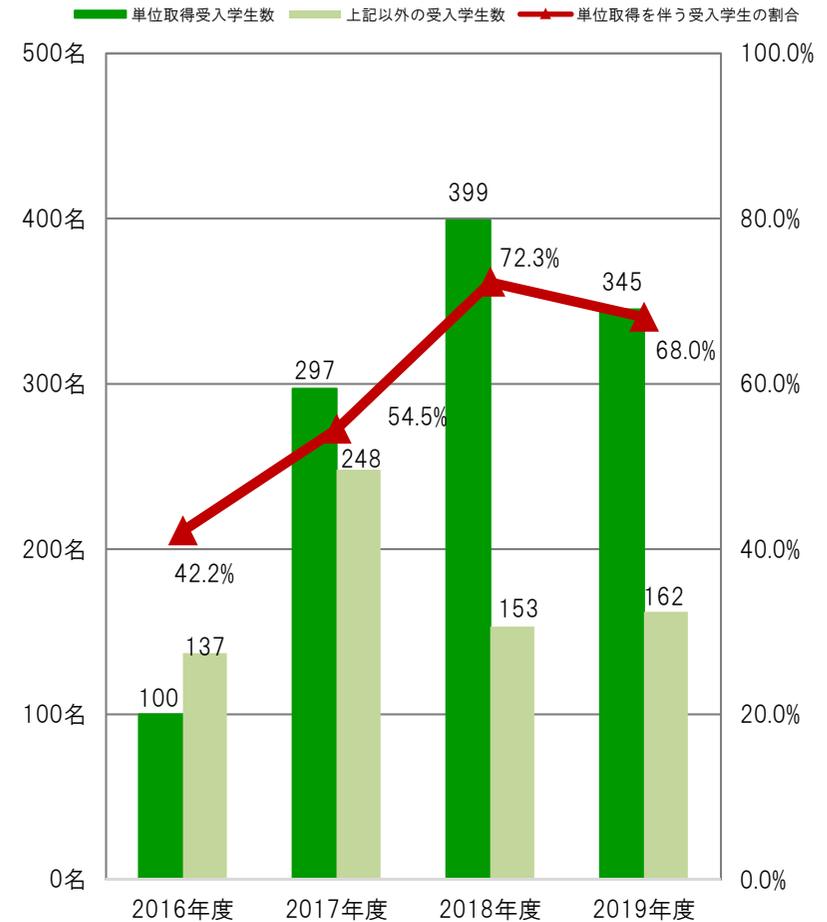
（2-1）外国人学生数（受入学生数）〈タイプA全17プログラムの年度別推移〉

いずれの年度も目標を上回っているものの、2019年度はコロナ禍により前年度に比べ受入実績、単位取得受入学生数は下回った。

目標に対する実績・割合



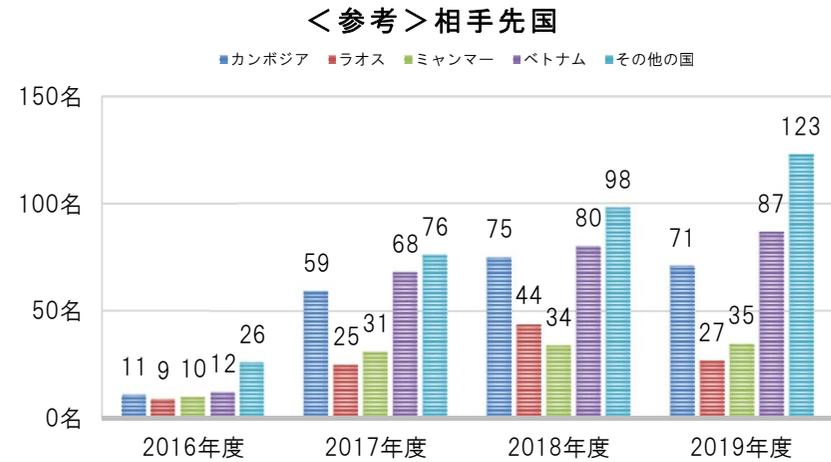
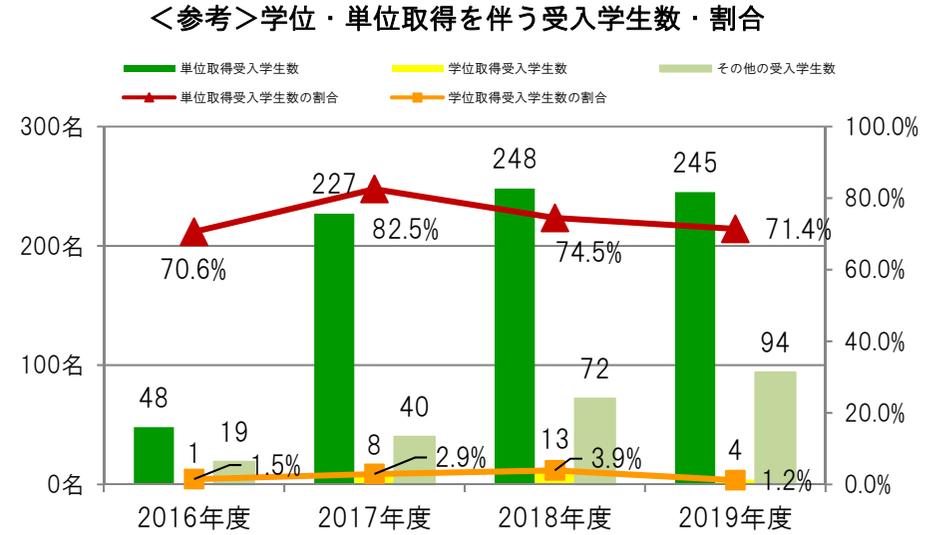
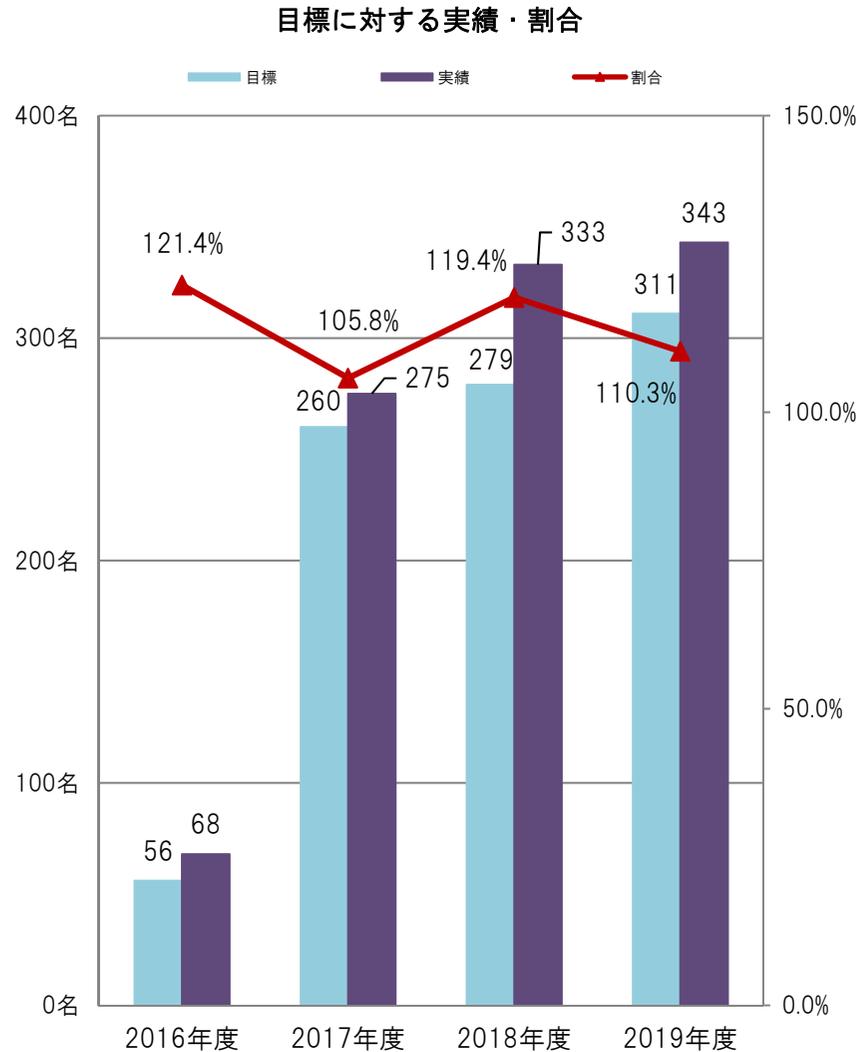
〈参考〉単位取得を行う受入学生数・割合



※詳細は別表2参照

(2-1) 外国人学生数（受入学生数）〈タイプB全8プログラムの年度別推移〉

いずれの年度も目標を上回っている。

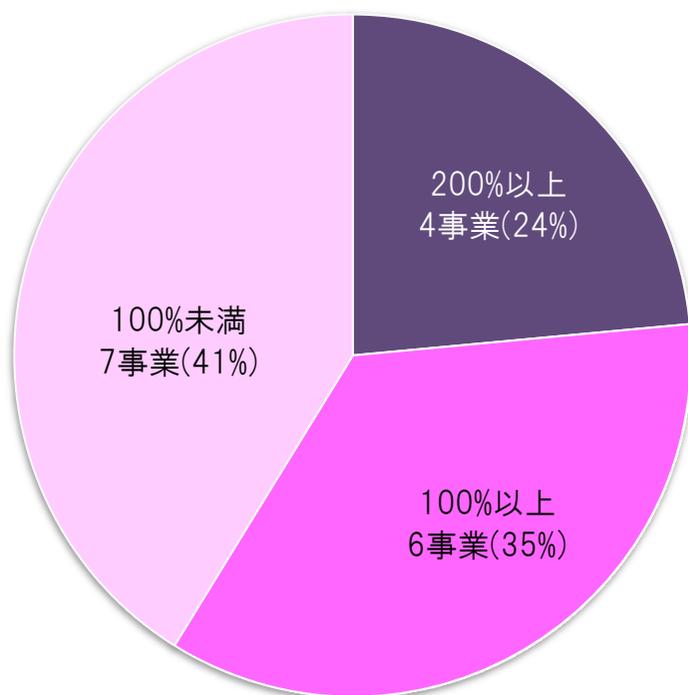


※詳細は別表4、6参照

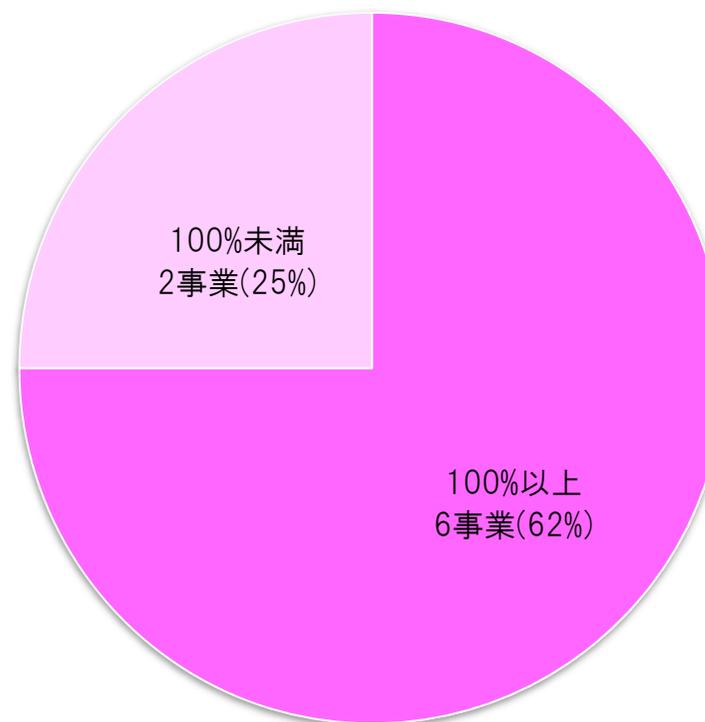
(2-2) 外国人学生数（受入学生数）〈2019年度の達成状況〉

目標に対する達成率

タイプA(17プログラム)



タイプB(8プログラム)



※詳細は別表2、4参照

(2-3) 交流プログラム（受入）の進捗状況

千葉大学（A-②-1）

中国から10名(うち連携校4名)の学生を受入れ、植物工場のデザイン、都市緑化を考えるランドスケープデザインや情報デザインをテーマに実施し、柏の葉キャンパスの学内のフィールドを利用した学内インターンシップ・プログラムは、学習と就業体験が同じ場所で実施される点も学生から好評を得ている。また、インターンシップを実施することにより、学生の実践現場に関する理解が深まり、実践的な学習における効果を得られている。

東京藝術大学（A-②-4）

日中韓3大学の共同カリキュラムとして実施した「国際共同演習」は、参加学生の「共同制作相手国の文化等への知識・理解」の深まりや「国際的なコミュニケーション能力」を向上させ、アニメーション及び映像メディア分野において、深い知識と高い技術を国際協働の場で活かし、国際共同制作や共同研究を牽引する人材を養成できた。

長崎大学（A-②-8）

「インフラに関するサマースクール」を開催した結果、受入人数を大幅に増加させることができた。

東京外国語大学（B-1）

長期受入において、近隣でのボランティア活動、学外施設の見学、地方でのスタディツアー、1日インターンシップなどの学外での学習機会を提供することにより、多角的な視点から日本理解をより深化させるとともに、キャリアパス支援として、VPI職業興味検査を実施し、東京外国語大学キャリアアドバイザーによる解説を通じて自己理解を深め、今後の進路に関する意識喚起を促した。

名古屋大学（B-4）

経済学部プログラムでは、一般社団法人「グローバル愛知」の協力を得て、相手国でビジネスを展開したい企業と学生たちのワークショップを、講義として単位を付与して実施し、海外進出を考えている地元企業のマーケティング戦略について、シンガポール国立大学(6名)と名古屋大学の学生と一緒に討論と発表を行い、企業から高い評価を得られた。シンガポール派遣では、地元企業と連携して現地でも調査を行う予定としていたが、新型コロナの影響で派遣事業を中止したものの、学生たちは自主的に事前調査として国内学生や留学生、交流したシンガポール国立大学学生の手を借りてアンケートを実施したり、国内での販売状況を調査するために近隣店舗を回るなど、派遣プログラムに備えた活動を行った。

広島大学、広島経済大学 (B-6)

受入学生には「研究力」及び「社会企業力」の養成を目的とした専門教育やセミナーだけでなく、「ヒロシマ」の地域特性を活かした平和学習の機会として、学内の平和関連行事への積極的参加、平和記念公園及び資料館の訪問学習や被爆者による被爆証言の聴講と文化交流会などの提供を実施した。

明治大学 (B-8)

理工学部・理工学研究科が実施した受入プログラムでは、チュラロンコン大学及びシンガポール国立大学からの長期受入プログラムとCLMVの国々における大学との短期受入プログラムの2つを軸として実施し、十分な教育効果を得ながら毎年継続して全てのプログラムが安定して運営されている。また、情報コミュニケーション学部のアセアン短期学生交流プログラムでは、日本における研修の総括として参加学生全員によるスピーチ大会を動画で撮影し、所属大学の教員が閲覧することや成績評価に活用することや、過年度の動画を参考にしながら独自性あるスピーチが行われた。

別表1:プログラムごとの派遣学生数(2016年度採択・タイプA)

(単位:名)

取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)														
	目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数						左記以外の派遣学生数								
				(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上				
				目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績			
東京大学	2016	10	4	40.0	10	4	0	0	10	4	0	0	0	0	0	0		
	2017	14	12	85.7	14	10	0	0	14	10	0	2	0	2	0	0		
	2018	13	10	76.9	13	8	0	0	13	8	0	2	0	2	0	0		
	2019	14	13	92.9	14	13	0	0	14	13	0	0	0	0	0	0	0	
	計	51	39	76.5	51	35	0	0	51	35	0	4	0	4	0	0		
東京工業大学	2016	5	6	120.0	0	3	0	3	0	0	5	3	5	1	0	2		
	2017	10	11	110.0	10	3	2	1	8	2	0	8	0	6	0	2		
	2018	10	16	160.0	10	4	2	4	8	0	0	12	0	10	0	2		
	2019	10	6	60.0	10	2	2	1	8	1	0	4	0	3	0	1		
	計	35	39	111.4	30	12	6	9	24	3	5	27	5	20	0	7		
一橋大学	2016	16	2	12.5	11	2	5	1	6	1	5	0	5	0	0	0		
	2017	16	12	75.0	11	12	5	12	6	0	5	0	5	0	0	0		
	2018	16	12	75.0	11	12	5	10	6	2	5	0	5	0	0	0		
	2019	16	12	75.0	11	12	5	11	6	1	5	0	5	0	0	0		
	計	64	38	59.4	44	38	20	34	24	4	20	0	20	0	0	0		
名古屋大学	2016	28	22	78.6	10	3	0	0	10	3	18	19	18	19	0	0		
	2017	28	30	107.1	10	10	0	0	10	10	18	20	18	20	0	0		
	2018	28	30	107.1	10	11	0	0	10	11	18	19	18	19	0	0		
	2019	28	15	53.6	10	10	0	0	10	10	18	5	18	5	0	0		
	計	112	97	86.6	40	34	0	0	40	34	72	63	72	63	0	0		
神戸大学	2016	11	9	81.8	7	5	0	0	7	5	4	4	4	4	0	0		
	2017	15	36	240.0	8	5	0	0	8	5	7	31	5	31	2	0		
	2018	15	26	173.3	8	9	0	0	8	9	7	17	5	17	2	0		
	2019	17	28	164.7	10	9	0	0	10	9	7	19	5	19	2	0		
	計	58	99	170.7	33	28	0	0	33	28	25	71	19	71	6	0		
岡山大学	2016	40	49	122.5	35	46	20	40	15	6	5	3	3	3	2	0		
	2017	55	55	100.0	40	55	20	47	20	8	15	0	10	0	5	0		
	2018	55	65	118.2	40	53	20	38	20	15	15	12	10	12	5	0		
	2019	70	62	88.6	40	62	20	48	20	14	30	0	25	0	5	0		
	計	220	231	105.0	155	216	80	173	75	43	65	15	48	15	17	0		
九州大学	2016	75	102	136.0	43	36	33	29	10	7	32	66	30	66	2	0		
	2017	58	48	82.8	56	36	44	27	12	9	2	12	0	12	2	0		
	2018	44	43	97.7	12	6	0	0	12	6	32	37	30	37	2	0		
	2019	94	83	88.3	64	36	48	22	16	14	30	47	30	47	0	0		
	計	271	276	101.8	175	114	125	78	50	36	96	162	90	162	6	0		
立命館大学	2016	20	21	105.0	20	21	0	0	20	21	0	0	0	0	0	0		
	2017	60	55	91.7	60	55	0	0	60	55	0	0	0	0	0	0		
	2018	80	69	86.3	80	69	0	0	80	69	0	0	0	0	0	0		
	2019	80	64	80.0	80	64	0	0	80	64	0	0	0	0	0	0		
	計	240	209	87.1	240	209	0	0	240	209	0	0	0	0	0	0		
合計				1051	1028	97.8	768	686	231	294	537	392	283	342	254	335	29	7

タイプA①

取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)													
	目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数						左記以外の派遣学生数							
				(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上			
				目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
千葉大学	植物環境イノベーション・プログラム	2016	20	31	155.0	20	31	6	31	14	0	0	0	0	0	0	0
		2017	32	38	118.8	32	38	14	38	18	0	0	0	0	0	0	0
		2018	38	34	89.5	38	28	14	26	24	2	0	6	0	6	0	0
		2019	35	22	62.9	35	22	14	21	21	1	0	0	0	0	0	0
		計	125	125	100.0	125	119	48	116	77	3	0	6	0	6	0	0
東京大学	日中韓教養教育アライアンスによる高度教養教育の充実と「協創型人材」の育成	2016	0	9	900.0	0	2	0	2	0	0	7	0	7	0	0	
		2017	14	54	385.7	8	7	0	0	8	7	6	47	6	47	0	0
		2018	14	41	292.9	8	16	0	2	8	14	6	25	6	25	0	0
		2019	22	47	213.6	8	28	0	6	8	22	14	19	14	19	0	0
		計	50	151	302.0	24	53	0	10	24	43	26	98	26	98	0	0
東京学芸大学	東アジア教員養成国際大学院プログラム	2016	6	5	83.3	6	3	0	0	6	3	0	2	0	2	0	0
		2017	16	32	200.0	11	12	5	4	6	8	5	20	5	20	0	0
		2018	18	87	483.3	13	24	5	15	8	9	5	63	5	63	0	0
		2019	28	59	210.7	18	27	10	21	8	6	10	32	10	32	0	0
		計	68	183	269.1	48	66	20	40	28	26	20	117	20	117	0	0
東京藝術大学	国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-workカリキュラム	2016	0	7	700.0	0	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	
		2017	10	21	210.0	10	21	5	9	5	12	0	0	0	0	0	
		2018	10	16	160.0	10	16	5	12	5	4	0	0	0	0	0	
		2019	10	10	100.0	10	10	5	9	5	1	0	0	0	0	0	
		計	30	54	180.0	30	54	15	37	15	17	0	0	0	0	0	
東京海洋大学	「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム	2016	3	8	266.7	3	0	3	0	0	0	8	0	8	0	0	
		2017	10	39	390.0	10	10	4	9	6	1	0	29	0	29	0	
		2018	10	30	300.0	10	13	4	10	6	3	0	17	0	17	0	
		2019	10	14	140.0	10	6	4	0	6	6	0	8	0	8	0	
		計	33	91	275.8	33	29	15	19	18	10	0	62	0	62	0	
大阪大学	世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム	2016	5	5	100.0	5	0	5	0	0	0	5	0	5	0	0	
		2017	10	14	140.0	10	0	5	0	5	0	14	0	13	0	1	
		2018	15	17	113.3	15	0	5	0	10	0	17	0	17	0	0	
		2019	15	11	73.3	15	11	5	9	10	2	0	0	0	0	0	
		計	45	47	104.4	45	11	20	9	25	2	0	36	0	35	0	1
九州大学	アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム	2016	5	17	340.0	5	0	5	0	0	0	17	0	17	0	0	
		2017	20	37	185.0	20	16	15	16	5	0	21	0	21	0	0	
		2018	20	44	220.0	20	8	15	6	5	2	0	36	0	36	0	
		2019	30	27	90.0	30	21	20	18	10	3	0	6	0	6	0	
		計	75	125	166.7	75	45	55	40	20	5	0	80	0	80	0	
長崎大学	日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業	2016	6	4	66.7	6	0	0	0	6	0	4	0	4	0	0	
		2017	10	10	100.0	10	4	0	0	10	4	0	6	0	6	0	
		2018	10	13	130.0	10	8	0	4	10	4	0	5	0	5	0	
		2019	10	11	110.0	10	9	0	7	10	2	0	2	0	2	0	
		計	36	38	105.6	36	21	0	11	36	10	0	17	0	17	0	
早稲田大学	多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム	2016	10	0	0	10	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	
		2017	30	7	23.3	30	7	0	0	30	7	0	0	0	0	0	
		2018	40	29	72.5	40	25	0	0	40	25	0	4	0	4	0	
		2019	33	71	215.2	33	61	0	0	33	61	0	10	0	10	0	
		計	113	107	94.7	113	93	0	0	113	93	0	14	0	14	0	
合計			575	921	160.2	529	491	173	282	356	209	46	430	46	429	0	1
総計			1,626	1,949	119.9	1,297	1,177	404	576	893	601	329	772	300	764	29	8

別表2:プログラムごとの受入学生数(2016年度採択・タイプA)

(単位:名)

	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)												
		目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数						左記以外の受入学生数						
					(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		
		目標	実績		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績			
東京大学	北京-ソウル-東京(BESETO)ダブル・ディグリー-プログラム:国際・公共政策共同研究	2016	4	0	0.0	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	
		2017	11	11	100.0	11	11	0	0	11	11	0	0	0	0	0	
		2018	14	13	92.9	14	13	0	0	14	13	0	0	0	0	0	
		2019	12	13	108.3	12	13	0	0	12	13	0	0	0	0	0	
		計	41	37	90.2	41	37	0	0	41	37	0	0	0	0	0	
東京工業大学	日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム	2016	5	10	200.0	0	0	0	0	0	0	5	10	5	6	0	4
		2017	10	20	200.0	10	12	4	6	6	6	0	8	0	0	0	8
		2018	10	22	220.0	10	14	4	6	6	8	0	8	0	8	0	0
		2019	10	16	160.0	10	16	4	4	6	12	0	0	0	0	0	0
		計	35	68	194.3	30	42	12	16	18	26	5	26	5	14	0	12
一橋大学	アジア・ビジネスリーダー・プログラムⅡ(アドバンスト)	2016	26	31	119.2	26	2	20	0	6	2	0	29	0	29	0	0
		2017	26	22	84.6	26	22	20	20	6	2	0	0	0	0	0	
		2018	26	43	165.4	26	20	20	17	6	3	0	23	0	23	0	0
		2019	26	12	46.2	26	12	20	11	6	1	0	0	0	0	0	
		計	104	108	103.8	104	56	80	48	24	8	0	52	0	52	0	0
名古屋大学	東アジア「ユス・コムーネ」(共通法)形成にむけた法的・政治的認識共同体の人材育成	2016	10	8	80.0	10	8	0	0	10	8	0	0	0	0	0	
		2017	28	54	192.9	28	34	18	18	10	16	0	20	0	20	0	0
		2018	28	21	75.0	28	15	18	0	10	15	0	6	0	6	0	0
		2019	28	21	75.0	28	16	18	0	10	16	0	5	0	5	0	0
		計	94	104	110.6	94	73	54	18	40	55	0	31	0	31	0	0
神戸大学	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム	2016	8	8	100.0	8	8	0	0	8	8	0	0	0	0	0	
		2017	10	10	100.0	10	7	0	0	10	7	0	3	0	3	0	
		2018	10	11	110.0	10	9	0	0	10	9	0	2	0	2	0	
		2019	10	11	110.0	10	11	0	0	10	11	0	0	0	0	0	
		計	38	40	105.3	38	35	0	0	38	35	0	5	0	5	0	
岡山大学	東アジア高等教育圏を見据えた中核的の高度実践人=アジアクラット育成プログラム	2016	40	51	127.5	31	26	20	14	11	12	9	25	5	25	4	0
		2017	55	56	101.8	40	33	20	15	20	18	15	23	10	23	5	0
		2018	55	65	118.2	40	20	20	0	20	20	15	45	10	45	5	0
		2019	70	67	95.7	40	17	20	0	20	17	30	50	25	48	5	2
		計	220	239	108.6	151	96	80	29	71	67	69	143	50	141	19	2
九州大学	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム-ダブルディグリープログラムの高度化と定着・恒常化-	2016	12	50	416.7	10	10	0	0	10	10	2	40	0	40	2	0
		2017	74	120	162.2	12	11	0	0	12	11	62	109	60	107	2	2
		2018	86	87	101.2	84	83	72	73	12	10	2	4	0	4	2	0
		2019	16	11	68.8	16	11	0	0	16	11	0	0	0	0	0	
		計	188	268	142.6	122	115	72	73	50	42	66	153	60	151	6	2
立命館大学	東アジア人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営移動キャンパス	2016	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2017	40	34	85.0	40	34	0	0	40	34	0	0	0	0	0	
		2018	80	71	88.8	80	71	0	0	80	71	0	0	0	0	0	
		2019	80	75	93.8	80	75	0	0	80	75	0	0	0	0	0	
		計	200	180	90.0	200	180	0	0	200	180	0	0	0	0	0	
合計		920	1044	113.5	780	634	298	184	482	450	140	410	115	394	25	16	

タイプA①

取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)													
	目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数						左記以外の受入学生数							
				(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上			
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
千葉大学	植物環境イノベーション・プログラム	2016	24	35	145.8	24	35	8	34	16	1	0	0	0	0	0	
		2017	31	39	125.8	31	39	10	35	21	4	0	0	0	0	0	
		2018	33	26	78.8	33	26	10	22	23	4	0	0	0	0	0	
		2019	37	7	18.9	37	7	12	7	25	0	0	0	0	0	0	
		計	125	107	85.6	125	107	40	98	85	9	0	0	0	0	0	
東京大学	日中韓教養教育アライアンスによる高度教養教育の充実と「協創型人材」の育成	2016	12	13	108.3	0	0	0	0	0	0	12	13	12	13	0	0
		2017	8	22	275.0	8	8	0	0	8	8	0	14	0	14	0	0
		2018	24	32	133.3	8	16	0	0	8	16	16	16	16	16	0	0
		2019	8	27	337.5	8	11	0	0	8	11	0	16	0	16	0	0
		計	52	94	180.8	24	35	0	0	24	35	28	59	28	59	0	0
東京学芸大学	東アジア教員養成国際大学院プログラム	2016	6	14	233.3	6	11	0	0	6	11	0	3	0	3	0	0
		2017	16	42	262.5	6	32	0	0	6	32	10	10	10	10	0	0
		2018	18	50	277.8	8	37	0	0	8	37	10	13	10	13	0	0
		2019	18	45	250.0	8	35	0	0	8	35	10	10	10	10	0	0
		計	58	151	260.3	28	115	0	0	28	115	30	36	30	36	0	0
東京藝術大学	国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-workカリキュラム	2016	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2017	15	20	133.3	15	16	5	6	10	10	0	4	0	4	0	0
		2018	5	18	360.0	5	18	5	16	0	2	0	0	0	0	0	
		2019	15	16	106.7	15	16	5	15	10	1	0	0	0	0	0	
		計	35	54	154.3	35	50	15	37	20	13	0	4	0	4	0	0
東京海洋大学	「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム	2016	3	9	300.0	3	0	3	0	0	0	9	0	9	0	0	
		2017	10	28	280.0	10	5	4	0	6	5	0	23	0	23	0	0
		2018	10	16	160.0	10	7	4	0	6	7	0	9	0	9	0	0
		2019	10	47	470.0	10	26	4	20	6	6	0	21	0	21	0	0
		計	33	100	303.0	33	38	15	20	18	18	0	62	0	62	0	0
大阪大学	世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム	2016	5	5	100.0	5	0	5	0	0	0	5	0	5	0	0	
		2017	10	17	170.0	10	0	5	0	5	0	17	0	14	0	3	
		2018	15	15	100.0	15	15	5	14	10	1	0	0	0	0	0	
		2019	15	26	173.3	15	26	5	23	10	3	0	0	0	0	0	
		計	45	63	140.0	45	41	20	37	25	4	0	22	0	19	0	3
九州大学	アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム	2016	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2017	20	22	110.0	20	22	15	15	5	7	0	0	0	0	0	
		2018	20	20	100.0	20	15	15	8	5	7	0	5	0	5	0	0
		2019	25	19	76.0	25	10	15	4	10	6	0	9	0	9	0	0
		計	65	61	93.8	65	47	45	27	20	20	0	14	0	14	0	0
長崎大学	日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業	2016	0	3	300.0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	
		2017	10	10	100.0	10	10	0	0	10	10	0	0	0	0	0	
		2018	10	9	90.0	10	9	0	0	10	9	0	0	0	0	0	
		2019	10	35	350.0	10	5	0	0	10	5	0	30	0	30	0	0
		計	30	57	190.0	30	24	0	0	30	24	0	33	0	33	0	0
早稲田大学	多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム	2016	10	0	0	10	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	
		2017	30	18	60.0	30	1	0	0	30	1	0	17	0	17	0	0
		2018	40	33	82.5	40	11	0	0	40	11	0	22	0	22	0	0
		2019	31	59	190.3	31	38	0	0	31	38	0	21	0	21	0	0
		計	111	110	99.1	111	50	0	0	111	50	0	60	0	60	0	0
合計		554	797	143.9	496	507	135	219	361	288	58	290	58	287	0	3	
総計		1,474	1,841	124.9	1,276	1,141	433	403	843	738	198	700	173	681	25	19	

別表5： 交流相手国別の派遣学生数(2016年度採択・タイプB)

	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	相手国別内訳										
		目標(計)	実績(計)		カンボジア		ラオス		ミャンマー		ベトナム		その他(左記4か国以外)		
					目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	
東京外国語大学	日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム	2016	32	31	96.9	8	7	12	11	12	13	0	0	0	0
		2017	32	34	106.3	7	7	12	12	13	15	0	0	0	0
		2018	32	36	112.5	7	5	13	15	12	16	0	0	0	0
		2019	32	25	78.1	8	8	12	3	12	14	0	0	0	0
		計	128	126	98.4	30	27	49	41	49	58	0	0	0	0
東京藝術大学	日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～	2016	18	22	122.2	0	0	6	3	6	9	0	0	6	10
		2017	36	56	155.6	6	11	0	3	12	18	18	10	0	14
		2018	36	50	138.9	6	4	6	10	6	6	12	17	6	13
		2019	36	27	75.0	6	5	6	0	12	9	12	5	0	8
		計	126	155	123.0	18	20	18	16	36	42	42	32	12	45
新潟大学	メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育による理工系人材育成	2016	2	2	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		2017	15	17	113.3	1	1	1	1	0	0	2	2	11	13
		2018	20	25	125.0	1	1	1	2	0	0	15	19	3	3
		2019	30	14	46.7	18	2	2	2	0	0	5	5	5	5
		計	67	58	86.6	20	4	4	5	0	0	22	26	21	23
名古屋大学	ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム	2016	36	79	219.4	7	45	7	0	7	6	15	23	0	5
		2017	59	104	176.3	27	53	7	15	5	3	15	26	5	7
		2018	65	88	135.4	27	32	7	9	8	11	16	16	7	20
		2019	62	73	117.7	27	33	7	7	5	1	16	15	7	17
		計	222	344	155.0	88	163	28	31	25	21	62	80	19	49
京都大学、 関西大学	気候変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ人材育成プログラム	2016	0	0	#DIV/0!	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2017	21	30	142.9	1	1	1	0	2	4	17	3	0	22
		2018	21	32	152.4	1	0	1	1	2	0	5	8	12	23
		2019	21	26	123.8	2	0	1	0	2	0	16	2	0	24
		計	63	88	—	4	1	3	1	6	4	38	13	12	69
広島大学、 広島経済大学	CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する研究力と社会起業力の融合人材育成	2016	0	0	#DIV/0!	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2017	44	32	72.7	21	14	5	6	3	2	13	8	2	2
		2018	50	50	100.0	6	30	5	3	15	6	14	6	10	5
		2019	49	32	65.3	16	8	5	5	5	3	13	7	10	9
		計	143	114	—	43	52	15	14	23	11	40	21	22	16
慶應義塾大学	LLMを用いたメコン地域諸国大学との協働によるアジア発グローバル法務人材養成プログラム(PAGLEP)の形成	2016	6	16	266.7	1	7	1	0	1	0	2	9	1	0
		2017	15	20	133.3	3	6	2	2	2	0	5	6	3	6
		2018	15	20	133.3	3	1	2	5	2	0	5	13	3	1
		2019	21	21	100.0	4	1	3	0	3	8	7	12	4	0
		計	57	77	135.1	11	15	8	7	8	8	19	40	11	7
明治大学	CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造	2016	62	66	106.5	10	14	10	2	10	0	22	28	10	22
		2017	121	153	126.4	8	10	8	0	8	0	41	63	56	80
		2018	122	137	112.3	8	3	8	0	8	13	42	24	56	97
		2019	124	147	118.5	8	25	8	0	8	0	43	35	57	87
		計	429	503	117.2	34	52	34	2	34	13	148	150	179	286
合計		1235	1465	118.6	248	334	159	117	181	157	371	362	276	495	

別表6: 交流相手国別の受入学生数(2016年度採択・タイプB)

	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	相手国別内訳										
		目標(計)	実績(計)		カンボジア		ラオス		ミャンマー		ベトナム		その他(左記4か国以外)		
					目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	
東京外国語大学	日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム	2016	18	20	111.1	8	9	5	6	5	5	0	0	0	0
		2017	22	24	109.1	7	8	8	8	7	8	0	0	0	0
		2018	22	28	127.3	7	10	7	10	8	8	0	0	0	0
		2019	22	26	118.2	7	7	8	10	7	9	0	0	0	0
		計	84	98	116.7	29	34	28	34	27	30	0	0	0	0
東京藝術大学	日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～	2016	10	20	200.0	2	0	0	0	2	2	6	4	0	14
		2017	16	21	131.3	2	3	2	4	4	2	6	9	2	3
		2018	19	19	100.0	3	5	2	2	5	0	7	3	2	9
		2019	19	11	57.9	2	2	3	1	5	1	6	4	3	3
		計	64	71	110.9	9	10	7	7	16	5	25	20	7	29
新潟大学	メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育による理工系人材育成	2016	2	5	250.0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5
		2017	15	19	126.7	3	4	3	4	0	0	4	5	5	6
		2018	20	22	110.0	4	4	4	4	0	0	6	6	6	8
		2019	26	26	100.0	6	6	6	6	0	0	7	7	7	7
		計	63	72	114.3	13	14	13	14	0	0	17	18	20	26
名古屋大学	ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム	2016	4	2	50.0	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0
		2017	41	52	126.8	11	27	3	4	3	4	17	10	7	7
		2018	42	61	145.2	11	29	3	2	2	12	17	11	9	7
		2019	43	69	160.5	11	32	3	2	3	4	17	11	9	20
		計	130	184	141.5	33	88	11	10	8	20	53	32	25	34
京都大学、 関西大学	気候変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ人材育成プログラム	2016	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2017	19	30	157.9	0	1	0	0	7	8	6	3	6	18
		2018	26	29	111.5	2	1	0	0	7	7	5	4	12	17
		2019	26	29	111.5	1	2	1	0	7	5	5	4	12	18
		計	71	88	123.9	3	4	1	0	21	20	16	11	30	53
広島大学、 広島経済大学	CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する研究力と社会起業力の融合人材育成	2016	15	14	93.3	2	2	1	1	3	3	8	7	1	1
		2017	46	36	78.3	11	11	1	0	8	7	22	16	4	2
		2018	49	38	77.6	11	10	1	0	8	4	22	20	7	4
		2019	49	36	73.5	11	5	1	1	8	4	22	20	7	6
		計	159	124	78.0	35	28	4	2	27	18	74	63	19	13
慶應義塾大学	LLMを用いたメコン地域諸国大学との協働によるアジア発グローバル法務人材養成プログラム(PAGLEP)の形成	2016	1	1	100.0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
		2017	21	20	95.2	4	5	3	2	3	2	7	10	4	1
		2018	21	45	214.3	4	3	3	21	3	1	7	15	4	5
		2019	42	47	111.9	7	5	7	5	7	12	14	19	7	6
		計	85	113	132.9	15	13	13	28	13	15	29	45	15	12
明治大学	CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造	2016	6	6	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
		2017	80	57	71.3	12	0	3	3	0	0	18	15	47	39
		2018	80	89	111.3	0	13	15	5	0	2	18	21	47	48
		2019	84	99	117.9	0	12	3	2	12	0	22	22	47	63
		計	250	251	100.4	12	25	21	10	12	2	58	58	147	156
合計		906	1001	110.5	149	216	98	105	124	110	272	247	263	323	

大学名	事業名	取組年度	派遣										受入											
			派遣学生数	三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数					自己負担又は大学負担等による交流学生数					受入学生数	三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数					自己負担又は大学負担等による交流学生数				
				交流相手国			中国及び韓国	交流相手国			中国及び韓国	交流相手国			中国及び韓国	交流相手国			中国及び韓国					
				中国	韓国	中国及び韓国		中国	韓国	中国及び韓国		中国	韓国			中国及び韓国								
千葉大学	植物環境イノベーション・プログラム	2016	31	31	26	5	0	0	0	0	0	11	35	35	25	10	-	0	0	0	-	5		
		2017	38	29	11	18	0	9	9	0	0	18	39	37	25	12	-	2	0	2	-	27		
		2018	34	32	23	9	0	2	1	1	0	11	26	26	14	12	-	0	0	0	-	3		
		2019	22	21	16	5	0	1	1	0	0	15	7	6	5	1	-	1	1	0	-	6		
		計	125	113	76	37	0	12	11	1	0	55	107	104	69	35	-	3	1	2	-	41		
東京大学	日中韓教養教育アライアンスによる高度教養教育の充実と「協創型人材」の育成	2016	9	9	0	9	0	0	0	0	0	9	13	13	0	13	-	0	0	0	-	0		
		2017	54	54	30	21	3	0	0	0	0	7	22	22	10	12	-	0	0	0	-	8		
		2018	41	41	8	33	0	0	0	0	0	14	32	32	16	16	-	0	0	0	-	16		
		2019	47	47	20	27	0	0	0	0	0	22	27	27	13	14	-	0	0	0	-	11		
		計	151	151	58	90	3	0	0	0	0	52	94	94	39	55	-	0	0	0	-	35		
東京学芸大学	東アジア教員養成国際大学院プログラム	2016	5	4	2	2	0	1	1	0	0	3	14	8	6	2	-	6	3	3	-	11		
		2017	32	11	4	7	0	21	10	11	0	8	42	35	20	15	-	7	4	3	-	32		
		2018	87	15	6	9	0	72	26	46	0	9	50	28	15	13	-	22	14	8	-	37		
		2019	59	22	8	14	0	37	21	16	0	5	45	34	21	13	-	11	7	4	-	35		
		計	183	52	20	32	0	131	58	73	0	25	151	105	62	43	-	46	28	18	-	115		
東京藝術大学	国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-workカリキュラム	2016	7	7	0	7	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0		
		2017	21	21	10	11	0	0	0	0	0	21	20	20	10	10	-	0	0	0	-	20		
		2018	16	16	10	6	0	0	0	0	0	16	18	18	10	8	-	0	0	0	-	18		
		2019	10	10	1	9	0	0	0	0	0	10	16	16	6	10	-	0	0	0	-	16		
		計	54	54	21	33	0	0	0	0	0	54	54	54	26	28	-	0	0	0	-	54		
東京海洋大学	「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム	2016	8	8	8	0	0	0	0	0	8	9	9	0	9	-	0	0	0	-	0			
		2017	39	39	20	19	0	0	0	0	0	39	28	28	2	26	-	0	0	0	-	5		
		2018	30	30	15	15	0	0	0	0	0	30	16	16	12	4	-	0	0	0	-	7		
		2019	14	14	5	1	8	0	0	0	0	14	47	47	26	21	-	0	0	0	-	26		
		計	91	91	48	35	8	0	0	0	0	91	100	100	40	60	-	0	0	0	-	38		
大阪大学	世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム	2016	5	5	4	1	0	0	0	0	0	4	5	5	3	2	-	0	0	0	-	5		
		2017	14	14	7	7	0	0	0	0	0	13	17	17	11	6	-	0	0	0	-	17		
		2018	17	17	7	10	0	0	0	0	0	17	15	14	10	4	-	1	1	0	-	14		
		2019	11	10	6	1	3	1	1	0	0	7	26	25	12	13	-	1	1	0	-	25		
		計	47	46	24	19	3	1	1	0	0	41	63	61	36	25	-	2	2	0	-	61		
九州大学	アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム	2016	17	12	0	12	0	5	3	2	0	17	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0		
		2017	37	37	14	23	0	0	0	0	0	37	22	22	11	11	-	0	0	0	-	22		
		2018	44	28	6	22	0	16	14	2	0	44	20	20	8	12	-	0	0	0	-	20		
		2019	27	25	14	11	0	2	0	2	0	27	19	19	9	10	-	0	0	0	-	19		
		計	125	102	34	68	0	23	17	6	0	125	61	61	28	33	-	0	0	0	-	61		
長崎大学	日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業	2016	4	4	2	2	0	0	0	0	0	4	3	3	0	3	-	0	0	0	-	3		
		2017	10	10	1	9	0	0	0	0	0	10	10	10	5	5	-	0	0	0	-	10		
		2018	13	13	6	7	0	0	0	0	0	13	9	9	5	4	-	0	0	0	-	9		
		2019	11	11	3	8	0	0	0	0	0	11	35	35	22	13	-	0	0	0	-	35		
		計	38	38	12	26	0	0	0	0	0	38	57	57	32	25	-	0	0	0	-	57		
早稲田大学	多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム	2016	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0		
		2017	7	7	2	4	1	0	0	0	0	7	18	18	9	9	-	0	0	0	-	16		
		2018	29	9	5	4	0	20	15	5	0	29	33	26	16	10	-	7	0	7	-	33		
		2019	71	71	62	9	0	0	0	0	0	49	59	59	36	23	-	0	0	0	-	52		
		計	107	87	69	17	1	20	15	5	0	85	110	103	61	42	-	7	0	7	-	101		
計			921	734	362	357	15	187	102	85	0	566	797	739	393	346	-	58	31	27	-	563		
合計			1948	1321	583	693	45	627	337	258	32	1251	1842	1501	757	744	-	341	164	177	-	1135		
派遣・受入学生数に対する割合(%)				67.8	29.9	35.6	2.3	32.2	17.3	13.2	1.6	64.2		81.5	41.1	40.4	-	18.5	8.9	9.6	-	61.6		

※ 日中韓の交流学生数のみを記載。